

概要

研究分野として掲げているテクノロジーの哲学、イノベーションマネジメント、プロトタイピングに関する研究、およびそこで得られた知見を活かした活動を学内外で行った。学内では、メイカームーブメントの祭典「Ogaki Mini Maker Faire 2024」、岐阜県内の企業などにおけるイノベーション活動を支援する事業「岐阜イノベーション工房」のほか、メディア表現学研究会の運営担当、入学試験委員会(2024年3月まで)・研究委員会(2024年4月より)の委員長をつとめた。学外では、文化庁委託事業「Art for Well-being」の全体監修、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 非常勤講師などをつとめた。

学内の活動

論文

哲学者・ベルクソン研究者の平井靖史氏(慶應義塾大学)との共著で、メディアアート・科学・テクノロジーの歴史に関する国際会議「The 10th International Conference on the Histories of Media Art, Science and Technology」にて発表した内容を基にした論文が公開された。

- Kobayashi, Shigeru, and Yasushi Hirai. 2024. "Extending Research in New Media Art Conservation: A Bergson-Inspired Multi-Timescale Approach." In *RE:SOURCE 2023 (The 10th International Conference on the Histories of Media Art, Science and Technology)*, 70–77. Venice: Resource Press. https://www.mediaarthistory.org/?page_id=4393

Ogaki Mini Maker Faire 2024

様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさが伝播していくメイカームーブメントの祭典のローカル版「Mini Maker Faire」を大垣で開催するにあたり、総合ディレクターを担当した。大垣での開催は2010年に開催した前身となるイベントから数えて早くも8回目となる。前回から引き続き「つくることから、はじめよう。もの/あそび/ぶんか」をテーマに掲げ、地方開催ならではのゆったりとした空間と雰囲気など、これまでの良さを引き継いだイベントとして開催した。今回は様々な事情で物理会場には来場できない人々にも参加していただけるよう、イベントの周知を兼ねたプレイベントをメタバース会場で開催した。

- Ogaki Mini Maker Faire 2024ウェブサイト
<https://www.iamas.ac.jp/ommf2024/>
- Ogaki Mini Maker Faire2024イベントレポート
<https://www.iamas.ac.jp/report/ogaki-mini-maker-faire-2024/>

岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房は、岐阜県内の企業などにおけるイノベーション活動を支援する事業。参加者が、イノベーション創出に有効であるとされる手法を主催者から学び、参加者の所属組織などにおいて実践し、実践からの学びを共有することを通じて、イノベーション活動に積極的に取り組む風土を岐阜県内に醸成することを目的として2018年度より開催しており、合計で企業26社23チームが参加している。それらのうち、本事業への参加をきっかけとして2社がプロダクト（製品・サービス）のイノベーションを実現できたのにくわえて、1社がプロセスのイノベーションを実現できたことが確認できている。これまでの参加者を対象にしたフォローアップの一環として、2024年2月22日に成果報告会を開催したほか、新規事業創出プロジェクトを立ち上げた金森和宏氏（2020年度参加者・太平洋工業株式会社）のインタビュー記事を制作・公開した。

- ・ 岐阜イノベーション工房ウェブサイト

<https://sites.google.com/iamas.ac.jp/gifu-innovation-workshop/>

- ・ インタビュー記事「岐阜イノベーション工房 参加者の“その後”——社員が自由に参加できる、新規事業創出プロジェクト（太平洋工業）」

<https://www.iamas.ac.jp/report/innovation-workshop-after-talk/>

メディア表現学研究会

メディア表現学研究会は、本学における多様な研究と制作が直面している話題の中で、今後の社会を考える上で重要な兆候になるとと思われるものを学外に開き、参加者との議論を経てメディア表現学を集合的に定義していくことを目的とした連続研究会。2024年には2回の研究会が開催され、そのうち1回の企画・運営を担当した。

- ・ 第9回（2024年12月10日）：「『畏敬の念』研究の現在——神秘を感じる心のメカニズムを科学する」（ゲスト：高野了太氏）

<https://www.iamas.ac.jp/report/sg-for-media-creation-studies09/>

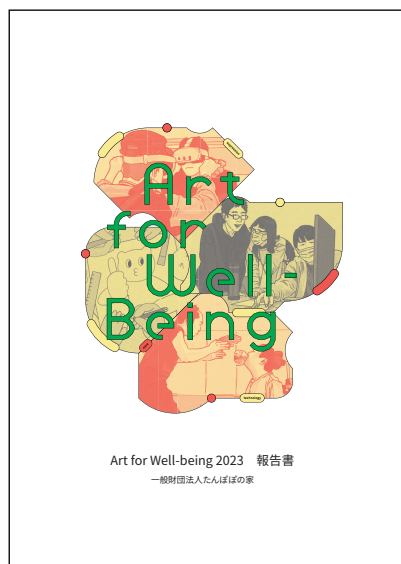
入学試験委員会（委員長）・研究委員会（委員長）

2024年3月まで、入学試験委員会の委員長として入学試験制度の整備を進めつつ、進学説明会の運営等を行った。また、2024年4月より研究委員会の委員長として、公開フォーラム「IAMAS OPEN HOUSE」や修了研究発表会と同時開催の発表会「プロジェクト実習発表会」（2024年度に新設）に関する方針整理などを推進した。

学外の活動

Art for Well-being

文化庁委託事業「Art for Well-being」は、アートとケアの観点からテクノロジーをとらえなおし、アートとケアとテクノロジーの可能性をひろげることを目的としたプロジェクトで、奈良県奈良市の一般財団法人たんぽぽの家が主宰。病気や事故、加齢、障害の重度化など、心身がどのような状態に変化しても、テクノロジーとともに、表現活動を継続できるようにすることをめざしている。準備段階から参加し、採択された2022年4月から「全体監修」を担当、ケアの現場を理解しつつ先端的なテクノロジーの可能性を探求するエンジニアなどをコーディネートする、複雑に絡み合った状況で進行するサブプロジェクトおよびプロジェクト全体の進行について事務局にアドバイスする、といった役割を担当している。2023年度の取り組みの成果は、2024年度人工知能学会全国大会などにおいて発表した。



Art for Well-being報告書

慶應義塾大学 非常勤講師

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科において、「サービスデザイン特論」を担当し、サービスデザインをテーマにイノベーションマネジメントを中心とする知見を提供した。